

# 前置詞 *over*, *under* の非空間的用法に関する一考察

太田ふみ野 ( ohta.f@fs8.ecs.kyoto-u.ac.jp )

京都大学大学院 人間・環境学研究科

## 1. はじめに

本研究では、英語前置詞 *over*, *under* の「支配・影響関係」を表す用法(以下、支配用法)を、BNC の用例をもとに観察する。その上で、一見対称性をなしているようにみえる *over*, *under* の支配用法に、非対称的側面が存在する(*over* を用いて表わされる「支配関係」と、*under* を用いて表わされる「支配関係」とは、事態の性質に違いがある)ことを指摘する。

## 2. 先行研究 - 対称的振舞い -

*over*, *under* は、共に空間的上下関係を表す前置詞である。それらは、対称的な位置関係を表す用法をもち、伝統的に反義語関係にあるとされる。

- (1) a. his flat was **over** the shop (ODE2)  
b. the room **under** his study (ODE2)

*over*, *under* は、空間的な位置関係のみならず、非空間的な抽象的概念についても表すことができる。非空間的意味への拡張に関して、Tyler&Evans(2003) (以下、T&E)は、*over*, *under* が共に支配関係を表す意義へ拡張していることを指摘している。

- (2) a. She has a strange **power over** me. (ibid. : 101)  
b. As military leaders gained **influence over** Japan's government,...<sup>1</sup>  
(3) a. He is **under** my control. (Evans & Green 2006: 39)  
b. She seems **under the influence** of drug.

これは、“HIGH STATUS IS UP, LOW STATUS IS DOWN” といった、経験を基盤としたメタファー (Lakoff & Johnson 1980) に基づく拡張と考えることができる。さらに T&E は、上下だけでなく近接関係にも注目し、*above*, *below* は、距離が離れた二者間の位置関係を示すので、支配用法がなく、一方 *over*, *under* は、近接した二者間の位置関係を表すので、この近接性が支配関係に意味拡張するとしている。

このように、T&E の分析においては、*over*, *under* が共に支配用法を持つことが指摘され、その動機づけが示された。しかし、*over* の支配用法と *under* の支配用法の詳細な比較は行われておらず、それらの相違点については指摘がない。コーパスにおいてこれ

ら支配用法の実例を観察した結果、*over* の支配用法と *under* の支配用法の間には、いくつかの相違点、つまり、非対称的な側面が見られた。そこで、本研究では、この非対称的振舞いを、支配を表すような名詞(e.g. *power*, *influence*)と *over*, *under* が共起している文の観察を通じて明らかにしていく。

## 3. 分析 - 非対称性的振舞い -

支配を表す名詞と *over*, *under* が共起する文は、以下のような構造を持つ。

- (4) *over* の支配用法における構造(e.g. (2)) :

支配者+動詞+**支配を表す名詞**+*over*+被支配者

- (5) *under* の支配用法 における構造(e.g. (3)) :

被支配者+動詞+*under*+支配者's **支配を表す名詞**

被支配者+動詞+*under*+**支配を表す名詞**

+of 支配者

このように、*over* の支配用法では支配者が主語(認知的際立ちの高いトラジェクター(TR))になるのに対し、*under* の支配用法では、被支配者は、支配を表す名詞の前の所有格、または、後続の *of* 句で生起する。また、**支配を表す名詞**は、*over* の用法では *over* の前、*under* の用法では *under* の後ろに生起するという、統語的な差異がある。さらに、それぞれの用例を詳細に観察すると、文中に生起しやすい名詞の種類や、支配者の性質にも、両前置詞間で差異がみられた。

### 3.1 名詞の種類に見られる差異

表 1 は、コーパスから、支配を表わす名詞<sup>2</sup>ごとに *over*, *under* との共起を調べ、“名詞+*over*”, “*under*+名詞”<sup>3</sup>それぞれの共起頻度を示したものである。各名詞と *over*, *under* の共起頻度に差がみられる理由については、各名詞の視座を考えることで、ある程度説明が可能である。たとえば、*over* との共起頻度が高い *authority*, *power* を持つのは支配者であり、これらは**支配者側に視座がある名詞**である。よって、支配者を主語とする *over* の支配用法の文と視座が一致しており、これらの名詞と *over* との共起頻度が高いと考えられる。一方、*under* との共起頻度が高い *obligation*, *contract* が発生するのは被支配者に支配が及んだ時点であり、これらは**被支配者側に視座がある名詞**で

表 1 : over, under と名詞の共起頻度

	+ over	under +
authority	<b>234</b>	129
contract	5	<b>344</b>
influence	320	404
obligation	0	<b>221</b>
power	<b>356</b>	100
pressure	33	<b>1620</b>
supervision	18	<b>284</b>
sway	17	20

ある。よって、被支配者を主語とする *under* の支配用法の文と視座が一致し、*under* との共起が自然であると考えられる。

### 3.2 支配者の意図性に見られる差異

また、*over* の支配用法においては、*have*, *gain* など、所有に関わる行為を表す動詞が生起している(e.g. (2))。一方、*under* の支配用法においては、*be* 動詞や *seem* など、状態を表す動詞が生起しやすいことがわかる(e.g. (3))。こうした動詞の種類の違いから、*over* の支配用法が能動的な行為としての支配を表すのに対し、*under* の支配用法は受動的な被支配状態を表すという、性質の違いがみられる。

さらに、*under* の支配用法においては、支配者が生起する位置に、薬物・アルコールなど意図性のない無生物が頻繁に生起する(e.g.(3b))。しかし *over* の支配用法に現れる支配者は、意図性を持ち、能動的に支配を行うモノである場合が多い(e.g.(2))。

*over* の主語名詞 (TR)には意図性があるモノが現れ、*under* のTRには意図性のないモノが現れるという傾向は、両前置詞の空間的用法においても見られる。辞書の記述を参照すると、*over* の意義としては、“expressing passage or trajectory across” (ODE2)というように、TR の軌道を示す動きを前提とした意義が見られる。それに対し、*under* の意義として、動きを含意するような経路や軌道の意義の記述はみられない。このように、空間的用法においても、*over* のTRは動くモノ、*under* のTRは動きを持たない静的なモノである場合が多いことがわかる。空間的用法における *over* のTRの動的性質が、支配用法におけるTRの意図性・行為の能動性として表れていると考えられ、両者間の並行性が見て取れる。

この観点から、支配を表す名詞との共起頻度の差についても、説明を加えることができる。各名詞が

*of* 句を伴った場合の振舞いをみると、*authority*, *power* といった名詞の *of* 句に能動的な行為を行う支配者が現れる(e.g. (6a))のに対し、*pressure*, *obligation* といった名詞の *of* 句には、意図性を持つモノではなく、原因となるような状況が現れる(e.g. (6b))。

- (6) a. the *authority* of their government  
b. the *pressure* of a growing population

*pressure* が *over* よりも *under* と頻繁に共起するのは、*pressure* という名詞で表わされる支配が、意図性のあるモノによる能動的行為ではなく、非意図的に引き起こされた状況を表しやすいことに関連していると考えられる<sup>4</sup>。

## 4 . おわりに

本研究では、*over*, *under* の支配用法に焦点を当て、両者の間の非対称的側面を明らかにした。興味深いのは、支配以外の非空間的用法においても、*over* の用例はTRの行為を表すことが多く、*under* の用例はTRの状態及びTRが置かれた状況を表すことが多いという共通の傾向が見られる点である。

- (7) a. The little boy cried **over** his broken toy.(T&E:95 )  
b. there was a skyscraper **under** construction.  
(ODE2)

今後は、両前置詞の支配用法以外の非空間的用法についても、詳細な観察・分析を行っていきたい。

### [参考文献]

- Evans, Andrea. and Melanie Green. (2006). *Cognitive Linguistics: An Introduction*. Edinburgh: Edinburgh University Press.  
Lakoff, George. and Mark Johnson. (1980). *Metaphors We Live By*. Chicago: The University of Chicago Press.  
Tyler, Andrea. and Vyvyan Evans. (2003). *The Semantics of English Prepositions*. Cambridge: Cambridge University Press.  
[辞書・コーパス]  
*Oxford Dictionary of English, 2<sup>nd</sup> edition*. (2003). Oxford/ New York: Oxford University Press. [ODE2]  
*The British National Corpus*. [BNC]

<sup>1</sup> 出典表記の無い例文は全てBNCから採取した用例である。  
<sup>2</sup> T&Eが、*over*, *under*の支配用法として挙げた例文内の名詞。  
<sup>3</sup> “*under*+名詞”を検索する際は、当該の名詞が冠詞や形容詞による修飾を伴っている例が多数あるため、*under*と名詞の間に二語以内の語が置かれているものを含めて検索した。  
<sup>4</sup> *supervision*と両前置詞の共起頻度差に関する説明は、今後の課題とする。